

石巻市

医療・自治体・教育・PTA向け



震災復興学習プログラム・防災学習プログラム

プログラムの目的について

3月11日を境に、日本中のテレビで連日報道された石巻赤十字病院。
今後の災害時救援医療の全国的なモデルケースになるとも言われています。

- 震災当日インフラがあったのはこの病院だけで、病院周辺はどこまでも暗闇となっている
- 周辺の医療機関はほぼ壊滅状態で、地域20万人の命を一手に背負う事になる
- 震災3日後にはヘリが63機、ヘリの患者だけで1251人の患者が殺到する
- 3月下旬になっても、通常の5倍もの1日300人程の患者が押し寄せる
- 患者は津波被害特有の低体温症や津波肺の患者が多い
- 患者だけでなく、被災者も殺到。フロアを仕切り一般の人にも開放する
- 家族の安否もわからないまま、不眠不休の極限状態で働く医療従事者ばかりであった
- 石巻市役所の機能がほぼ停止状態となり、避難所の状況がまともに把握できない
- 石巻赤十字病院のスタッフを総動員して、300以上の避難所にいる7万人の健康状態を調査するという前代未聞のローラー作戦をおこなった
- 35箇所の避難所では震災から10日たっても食料さえまともに確保できていなかった
- 市内の避難所は水がなく手も洗えない排泄物も流せないものが3月末で100以上にのぼった
- 多くの避難民は劣悪な環境による、肺炎や感染性の胃腸炎を多く発病する

本プログラムは命を守る最前線の現場から、「死闘」といっても過言ではないぎりぎりの状況下において得た多くの教訓と知恵を、石巻赤十字病院のスタッフの方からお話いただきます。未来の医療や行政、学校の防災計画の一助となる知恵を伝授いたします。

プログラムを申し込ただく団体にあわせてお話いたします。高度な専門性をもつお話だけではありませぬので、肩肘はらずにお申込ください(石巻赤十字病院スタッフ談)。

(講師は、石巻市立病院の職員の方が終始同行いたします)

スケジュール(約2~3時間15分)

*タリフ記載の注意事項はお客様に事前に必ずご説明ください



①石巻赤十字病院 (約5分)
講師と合流。
バスにて会議室まで講師同行の上移動します。またプログラムの終了は講師を病院まで送り届けて終了となります。視察場所の石巻市立病院から病院までは20分、大川地区からは病院までは40分かかります)

移動

約25分

移動

②石巻市内会議室 (約60分)
会議室に到着後、講師からの講演となります。質疑応答の時間を含み1時間の公演です。公演終了後、医療・自治体団体は石巻市立病院へ教育・PTA団体は大川地区への視察に出発いたします。



移動

約50分



③石巻市立病院視察 (約15分)
地震発生から4日後、患者約150名が残されていました。大半が酸素吸入が必要な人や寝たきりの人です。暖房もなく衰弱が進みスタッフが手を尽くしたが次々と亡くなっていきます。その後DMATは1日で100人を超す患者を救い出します。

④大川地区視察 (約15分)
海拔ほぼゼロメートルにあったこの地区の学校は全校児童108名のうち津波で74名が死亡・行方不明となりました。生還した教員は1名。学校は津波のこないといされる避難所に指定されていました。地震後近所の住民が避難していました。



石巻市の震災・被災状況

- ①石巻市の震度 震度6弱
- ②人的被害 死者3,280名・行方不明者629名(2011年12月22日現在)



石巻市の浸水地域と石巻赤十字病院



津波により冠水した石巻市街(陸上自衛隊提供)



3/12 冠水する石巻バイパス(石巻日日新聞提供)



3/11 15:31 石巻市北上町十三浜(佐々木茂美氏提供)



病院の手前まで押し寄せる海水

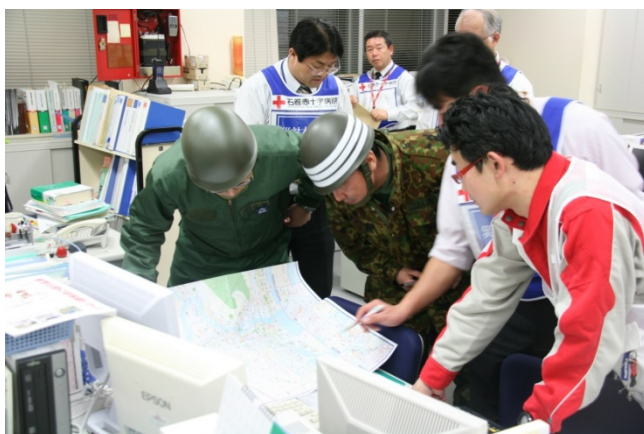
震災直後の状況



震災発生3分後、災害対策本部を立ち上げる。



震災発生1時間後、トリアージエリアを設置。



震災の夜21:43、自衛隊が到着。自衛隊が来た事により市内の被害状況がわかり急性期の救護活動に役立てる事ができた。



ヘリにより次々と運び込まれる患者。震災時はエレベーターが利用できない＝屋上ヘリポートは利用できない。沿岸部の災害拠点病院は陸上設置型ヘリポートが有効であることを実証した。



全国から到着する救護チーム



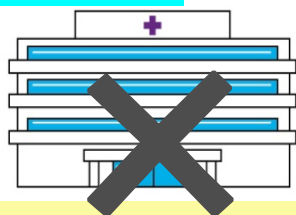
ゼッケンの色により役割が違う。

震災直後の医療情勢

急性期



石巻赤十字
病院:402床



石巻市立病院:206床



仙石病院:120床

亜急性期・回復期



女川町立病院:98床

斉藤病院:142床

石巻港湾病院:135床

真壁病院:131床



市立雄勝病院:42床



市立牡鹿病院:40床

石巻ロイヤル病院:42床



診療不能となった石巻市立病院

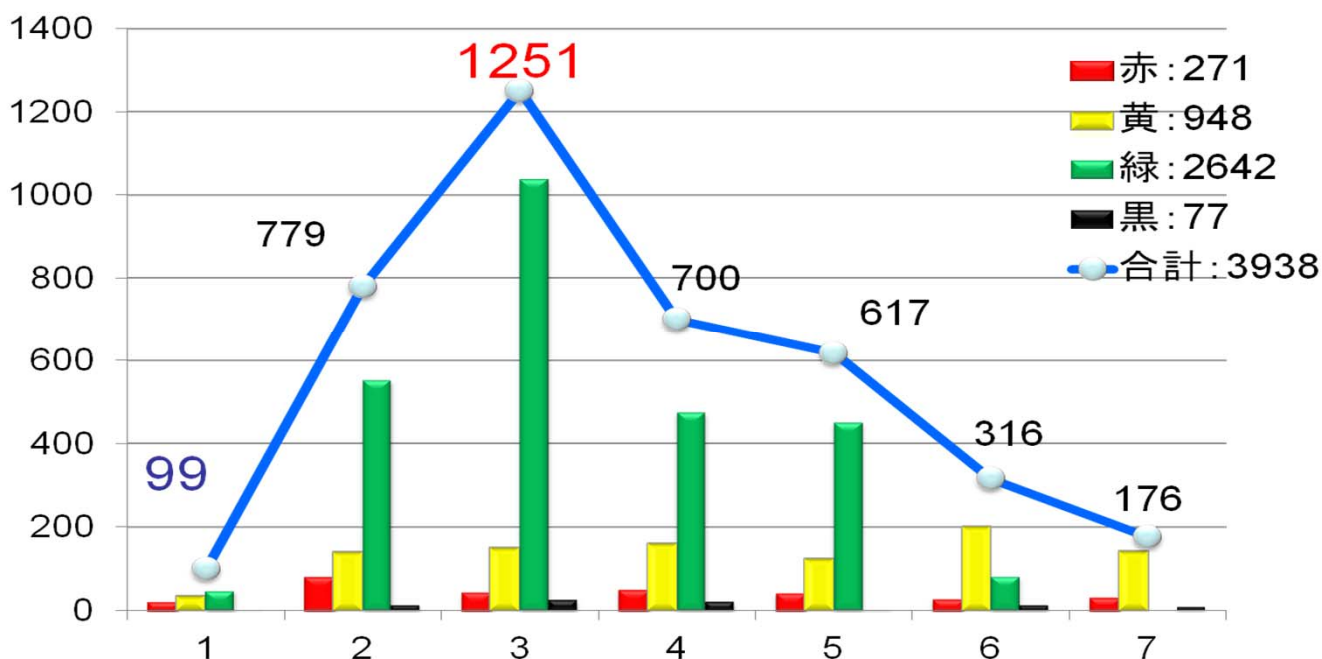


壊滅的被害を受けた市立雄勝病院
医師2名を含む職員・患者64名が亡くなる

石巻赤十字病院は市の防災計画に対して今後も積極的に発言をしていきます。

石巻市地域防災計画は、災害基本法により石巻防災会議が策定する計画です。その計画の震災対策・第13節(医療・防疫・保健衛生体制の整備)の災害拠点病院として石巻赤十字病院が明記されてます。当初の防災計画では沿岸部にある石巻市立病院が災害拠点病院でした。石巻赤十字病院からは市に対し「石巻市立病院は津波があった場合に病院機能を失う可能性がある」と提言し、提言が認められたのは震災の1年前でした。

石巻赤十字病院救急患者数の推移(震災後1週間)



各色はトリアージカテゴリー。

- 赤** 最優先治療群 生命を救うために、直ちに処置を必要とするもの(救命可能なもの)
- 黄** 待機的治療群 多少治療が遅れても、生命に危険がないもの
- 緑** 保留群 上記以外の軽易な傷病で、ほとんど専門医の治療を必要としないもの
- 黒** 死亡群 既に死亡している者又は直ちに処置を行っても明らかに救命が不可能なもの

トリアージとは？

「病院やケガの緊急度や重症度」を判定して「治療や後方搬送の優先順位を決めること。

地震などの災害時・非常時には、短時間に多数の方々がケガや病気になり医療機関での診療・治療を必要とするようになります。医療機関の機能(医療スタッフや機材、医薬品など)にも限界があり災害時に制約された条件下で一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うためのもの。

震災後1週間の救急患者数の推移です。

ピークは3日目の3月13日の1,251人です。石巻赤十字病院の1日平均救急患者数は約60人ですので、このグラフからもいかに多くの患者が押し寄せたがわかります。

プログラムの特徴(お話について)

「震災の教訓を後世に語り継ぐ。

わたしたち石巻赤十字病院社会課は社会に貢献する使命をもっています」

(石巻赤十字病院社会課係長高橋さん談)

来ていただく団体様により、お話を変えさせていただこうと思っております。

具体的には、医療団体様には東日本大震災時の医療機関としての対応や今後の課題について、

自治体団体様には主に〇〇〇〇について、

教育・PTA団体様には主に学校の防災計画や教育訓練について、

お話をしていきます。

命を守る医療の立場として、また被災地の立場として、

来ていただいた皆様が今後地元に戻ってからも役にたつお話をしていきたいと考えております。

当病院の震災にかかる社会貢献の一環として、震災の初動映像をyou tubeで公開したり、本を出版(石巻赤十字病院の100日間 東日本大震災 医師・看護師・病院職員たちの苦闘の記録)しております。こちらをあわせて見ていただくと、理解がさらに進むと思われます。

〇〇〇……高橋さんへ このあたりをご記載いただけませんか？